

1978. 7. 15 No. 6

70才の活動日記..... 田吉千二会長

70才の青春!

梅雨晴れの1日である。

7月4日、午前10時 眠れぬままに起き出て朝の街を
眼下に坂道の草を抜く。よく伸びる雑草である。

8時、町内廃品回収の準備のため、回収店へ連絡を
始める。ここでハタと行き詰まる。酒、ビール、サイダー
等の瓶回収店が 夏期多忙のため、回収に手不足を来
たした。2・3の新店に交渉。これも同様である。

飲む方は無理して回しても、空瓶回収までも…… 無理
もない。市役所の清掃課まで歩く道々、知る店に寄
て頼んでみる。「すみませんか……」と断られる始末。

清掃係と小30分、「街をきれいに」、「廃品を役立てま
しょう」等々の目標論をかかけて、係とひとくさり。

やても業者との話し合いがそう簡単にいくものでない。
再製不良の瓶類、コストと人件費、再製工場無、運
搬不能等々。

帰って、期日、場所、当番人等々の変更を原稿し、町
内係へお願ひする。

職場生活に出かける人々、家を守る人々、街を住みよく奉仕する人々、色々な立場の中で、男と女と子供、若者と老人が各様に生きている。

夜は町の常会に出て、諸々の話し合いの中にまみれ、私の担当も告げる。

1日を考える。久々よい天気の中で病院に重症の友人を見舞い、自分も健康診断に立ち寄り、旅行のプランを立てたり、街の運営に歩き回ったり、程々にと制しながら今日も多忙だった。明日は母子会の事業のプール、食堂管理に出かける日である。

何が待っているであろうか。

(7月4日記)

《老人問題から》

★6月例会の報告……田中同子

6月例会は「からやん」にて、元田克己先生をお招きし、ボケの姿について、熱心なお話を聞かせていただきました。先生は4月より馬町で教育心理相談所を開業され、心の健康について、幼児より老年に至るまで幅広く御指導されております。

衣食住充ち足りて、この世に不平はなさるうにみえる人でも、年をとってくると生きる欲びは損なわれ、生活の張りや意欲、気力は衰える、怠け心もついて社会からの孤立は避け難い。私たちは確実に老いて死ぬべきもの。老人のボケは何人も逃れられないもの。長生きとはボケた生活を長くすることに過ぎない。ボケを

少しでも先へ伸ばす糸口を探そう。頂上を登った太陽も、じわじわと西へ傾く。人生の黄昏を自覚する初老期、しのびよる心と身体のだ鈍化、死への恐怖感、落着く先は老人性痴呆の集団か動脈硬化症障害グループか二者選一である。ヤングの皆さんにとってまさしく老人にみる自己の未来像であります。

老人の性格はわがまま、頑固、自己本位、ひがみ、取越苦労、邪推、嫉妬深い、てしやはり、慎しみが無い、厚かましい、保守的、くとい…
 まだまだ続きます。人間の脳の発達、ピークは20才とか、成人式をすませたら、老化へ向かって下り坂、脳細胞は日毎壊滅！化粧品会社のコマーシャルにのってお顔のバックヤマッサージに励むミスヤミセスよ！心のお手入れはひとから、ゆめゆめ怠ることはできません。ボケ防止実践策として、ものごとにとらわれず、さうりと流しましょう。次に遊びや趣味も努力して育て、生活の中にゆとりを持つこと。特に女性は主婦の座を築いたあとでも、社会的につながりを持つものだと最上です。グループ活動には進んで参加し、仲間を作り、生きている実感を味わいましょう。野越え、山越え、新幹線、特急も利用して出かけましょう。そのための心配り、準備手配などうまくやりこなす工夫もボケ防止のための地固めです。

《婦人問題から》

★女のノート5年 制作ノート。。。。桑原勢津子

5年分のタイアリー式にして、長崎の女が今、必要な情報を書き込んで、5年間の人生を管理する。。。そんなノートがあったら！

まずつくることを決めましょう。

次にいい内容にする決心をしましょう。

身体を動かすことを決めましょう。

取材も販路、販売促進も分担して。

販路、販促のために

- 資金づくり——不用品を売る。(他の組織とタイアップして)
- 予約をとる——口コミ、ミニコミ、マスコミ活用、他の組織とタイアップ
- 広告をとる
- 会社などの販売促進に。
- 書店などにおく。

そんなことを次の例会で話し合ひましょう。

★Frauenkalender '78 (ドイツの女のカレンダー)

の紹介。。。。岸本桂子

このたび再び西ドイツ及び外国に於ける左ミニストグループの活動に関する情報！すなわち女がまだハンディキャップとさげすみの中で、あらゆる時代に、それに対してたたかってきたという証拠をこのカレンダーの中に、あなた方は発見します。と始まる“Frauenkalender”は西ドイツに於けるリヴの雑誌“Emma”のグループ

によって発行されており、昨年の“Emma”に掲載された記事の抜萃や読者からの投稿などがカレンダーのあちこちにちりばめられており、私たちがつくろうとしている“女のノート”とは少し趣きを異にするかもしれませんが、何かしらの参考になれば……と思い、西ドイツより帰国されたばかりの熊本在住の森裕子さんに訳してもらいました。

巻末には

- フェミニストグループのアドレスリスト(西ドイツ、西ベルリン)
- 世界の女のグループ(残念ながら日本は載っていない)
- 有名なドイツ語圏内のフェミニストの雑誌
- 西ドイツ及び西ベルリンの女の本屋一覧
- 歴史的な女性解放運動の資料
- 女性による新しい芸術(音楽、絵画、映画、ポスター)
- 文献目録
- メンスカレンダー

などが記載されています。

“女のノート”にいろいろな情報を載せる場合、5年間のノートをつくるとすれば、5年間に耐え得る情報とは一体どういうものだろうか……ということも考えなければなりません。

《手をつなぐ女たち》

★ 7.16・講座女から女たちへ・

テーマ「私の恋愛・結婚論」

講師・小沢遼子さんを迎えて

日時・7月16日(日)午後1時～5時

場所・出島会館講堂(長崎税関ヨコ)

主催・長崎・行動を起こしたい女の会
(連絡先 Tel 夜間のみ)

入場料
300 yen
当日窓口にて。

※ 6月26日、長崎行動——女の会の内田民子・松本千子さん(2人とも看護婦さん)が桑原さんを訪ねてくれました。講演会のお知らせと、今後の情報交換を話し合ったとのこと。

★ 働く婦人の中央集会に参加して。。。後藤ヤス子
5月27・28日の両日、東京で働く婦人の中央集会があり、参加いたしました。

これは「仕事とは何か」「働きがい」「生きがい」とは? などについて、職場や地域から持ちよって聞かれる全国集会です。だからそこに参加して、何か又生きる指針みたいなものを得ようと、何ヶ月も前から楽しみにして、参加計画を立てておりましたが、子供の小学校の運動会とちょうど重なってしまい、一時はどうしようかと随分迷いました。職場の男性先輩曰く、「運動会も毎年あるんだから、そっちの方に行ってきたら」とアドバイスをしてくれて、その一言で、子供にはすまな

いと思ったが、参加の決心がついた次第です。

ところで、男はどんな事があろうと、家庭や子供の事等、ちっとも足手まといにはならないのに、女が何か行動するとなると、すぐにいろいろな支障をきたすんだなあ、今回はいやという程、思いしらされました。でもある反面、そうしてまでもいろいろな行動をするたび毎に、親子ともとも精神的に強く鍛えられていくんだと思いました。世間では子供が成人する迄は子供ベッタリに一生懸命尽くしてやらなければならないと云うが、私は自分も子供も共に成長して行きたいので、人が何と云おうと、今を一生懸命、それこそ無我夢中で生きております。豊かな老後をむかえるためにも……。

※ 尚、NBCの宮本圭子さんもこの大会には参加しております。

おこしわり

○餅田千代さんの く肉親もなく、物もなく、貧しい中で育った子供たち—蘭陽寮の子供たち— ① の記事が 中断されておりますが 原稿はとまり次第、特集号を組むつもりでおりますので御了承下さい。

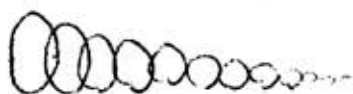
★このころ★

8月初めの予定のグループ展が、7月21日から26日までと早くなり、いざさかあわてています。7月3日迄に長崎の風景と花の絵の注文があり、今とりくんでいる最中で、それからグループ展を、と思っていたのが、あまり期日がなく、又忙しい日々が続きます。

夏休みになると、子供達の絵の教室が休みになるので、秋の県展の製作にかかれます。

展覧会に追われるのではなく、追う様になりたいと思うものの、主婦業合間では思う様に時間がとれません。でも、一日のうちのわずかな暇々を小さな時間を拾い集めて、少しずつ描いていこうとしています。

(鶴 初美)



会・会報に対する御意見、御質問などをお寄せ下さい

編集人

岸本桂子

TEL

事務局長

松崎澄子

TEL

★ 不用品セール (この家庭にもある不用品の情報です。
 次号はお中元の後ですので もっとた
 くさん集まる予定です。)

★ 陶器 大型灰皿 ￥700 1ヶ
 酒器 ￥1500 1ヶ
 男物洋傘 ￥1500 2ヶ
 水入 ￥1000 1ヶ
 菓子鉢(ステンル製) ￥2000 1ヶ
 男物冬用下着(上下) ￥1000~2500 3組

(松崎)

ほんのしょうかい
 本の紹介
 ほんのしょうかい

「おぼろしい老年期」 住谷悦治 著 (ミネルガ書房)
 住谷 磐

— 80才の老人と息子が共同で綴った
 エッセイ集です。読んでみてとてもいい本
 だったので、50~60代の方々に回し読み
 していますが大変好評で、なかには
 3回も読み返した人がいるくらいです。(後藤)

「入門 女性解放論」 一番ヶ瀬康子 編
 (亜紀書房 1200円)

— 従来の内外の女性解放論の概略を
 まとめたものです。このような内容を踏ま
 えて、新しい方向を模索してみたいと思っ
 ています。(窪鳥 説)

★ 会員 準会員を募集しています。

サリーについて

「フェミニスト」-牧神社-No5 誌上の「ホットなインドの旅」(藤枝 零子)に、インド変革の理想に燃え、6年間にわたる外国留学を終えて帰って来た女性が愛用していたジーンズで押し通そうとしたが、ただジーンズをはいているというだけでまわりの社会に受け入れてもらえず、至る所で障害にぶつかって格闘の末、遂に諦めてサリーに着替えたという。サリーを脱げないインドの女たちの苛立ちが報告されている。

時を同じくして、7月2日付読売新聞で、「サリーでせらしこを」と題した、タゴール瑛子さん語るところのサリー礼讃の記事を読んだ。

その国の文化を反映する民族衣裳としてのサリーを、全面的に否定する訳ではないが、日常生活の中でサリーの着用を社会的に強制されているインドの女性たちの不自由さ、その背景にある男尊女卑の現実を目をむけることのないサリー礼讃はインドに生きる女性の意見として 首をかいたくなる。

文学に見る老い

朝日新聞に樋口恵子さんが毎週金曜日に連載している「文学に見る老い」を面白く読んでいる。昨今、様々な老人論がジャーナリズムを賑わしているが、その多くは「よく老いるためのハウトゥもの」に終始している感がある。その中にある二の論は、~~あまのまの~~ ~~あまのまの~~ 人間臭い「老い」を、作品を通して分析してくれる。

★ ～新聞・雑誌から～ (岸本・磯野)